約4割以上の妊婦さんが無痛分娩を選択

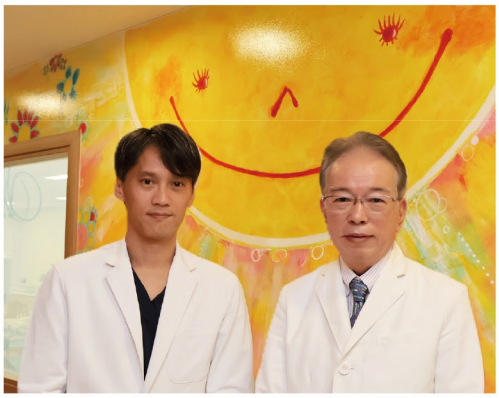
倉敷成人病センターで聞きました

産科・大橋 昌尚 先生　麻酔科・楠戸 和仁 先生　助産師・金只 好永 さん

「出産は痛みに耐えるのが当たり前」という考えから、今は妊婦さんにとって、よりよい出産方法が選べる時代になりました。年間約1300件（※1）という、中・四国地方でトップクラスの分娩（ぶんべん）数で、無痛分娩に積極的に取り組む倉敷成人病センターで話しを伺いました。

24時間365日

リラックスしたお産をチーム医療でサポート



大橋 昌尚（おおはし まさなお）先生
周産期センター長

玉野光南高校、弘前大学医学部卒業。主に宮崎県で周産期医療に携わり、東京で麻酔科標榜医を取得、2024年から倉敷成人病センターに勤務。医学博士。日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本周産期・新生児医学会新生児専門医、麻酔科標榜医

楠戸 和仁（くすど かずひと）先生
麻酔科主任部長・手術センター長

倉敷古城池高校、徳島大学医学部卒業。岡山大学麻酔科蘇生科入局後、三豊総合病院、福山市民病院、川崎医科大学附属病院などを経て2014年から倉敷成人病センターに勤務。専門は手術麻酔と集中治療。医学博士。日本麻酔科学会指導医、日本専門医機構認定麻酔科専門医、麻酔科標榜医

無痛分娩に関する情報を同院のYouTubeでも公開

産科 大橋先生　陣痛・分娩・回復（LDR）を同室内で家族と過ごす立会い分娩で、幸せな出産体験を

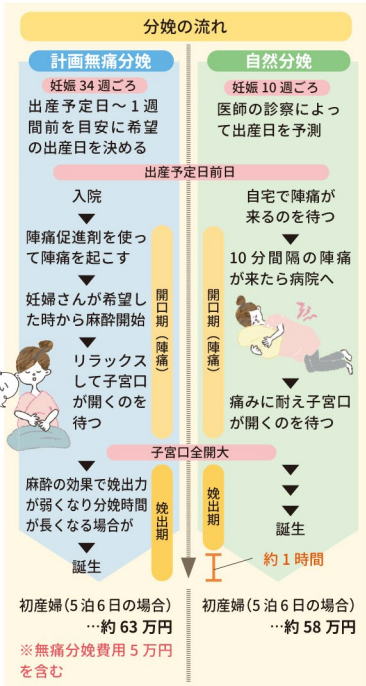
日本での無痛分娩の実施率は2024年が13・8%（※2）。倉敷成人病センターでは2024年が約30%（※3）で341人、今年1月～9月は約46%（※3）で300人と年々増加しています。

基本的には、無痛分娩は、あらかじめ分娩日を決めておく計画無痛分娩（左図参照）で行っていますが、計画外で行うこともあります。

無痛分娩は、麻酔によって分娩時の痛みを和らげる方法。妊婦さんが希望した時から麻酔を開始します。無痛分娩中はスマホを触って過ごせる程度まで痛みを軽減します。

子宮口が全開になってからの娩出期は、自然分娩と比べて約1時間長くなる傾向がありますが、帝王切開率の上昇は認めておりません。胎児・新生児への影響はなく、赤ちゃんの誕生直後、抱っこすることができ、自然分娩同様、産後5～6時間後には歩行もできます。過ごし方は自然分娩と変わりません。

倉敷成人病センターでは、麻酔科専門医と助産師、産科医が協力して、24時間・365日、質の高いチーム医療が提供できる体制を整えています。



分娩費用の詳細はこちら

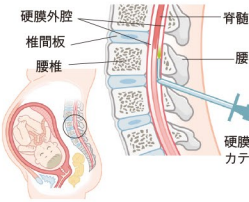
※1 R4年度…1407件
R5年度…1317件
R6年度…1310件
倉敷成人病センター調べ
※2 硬膜外無痛分娩の現状、日本産婦人科医会調べ
※3 全経腟分娩に対する割合

麻酔科 楠戸先生　硬膜外麻酔法で、子宮収縮や赤ちゃんを感じながらお産を

無痛分娩の麻酔は、幅広い手術で使用されている硬膜外麻酔法で行います（状況により経静脈的鎮痛法を用いる場合も）。妊婦さんが痛みを訴えてから麻酔を行い、約30分で効果が表れます。

硬膜外麻酔法は、カテーテル挿入前に局所麻酔薬を使用。下図の腰椎の隙間から針を差し、脊髄を包む外側5㎜程度の狭い硬膜外腔（くう）に針を止めて約1・3㎜のカテーテルを挿入し、麻酔薬を注入する方法です。麻酔薬は一定の速度で流れ、妊婦さんが強い痛みを感じた際にスイッチを押すと薬液の追加投与も可能です。麻酔で、下半身の感覚が完全になくなるわけではありません。子宮の収縮や赤ちゃんが降りてくる感覚を感じながらリラックスして、お産に臨めます。

また、カテーテルの挿入は、細心の注意を払って行いますが、まれに硬膜外腔に穴が開き、穴から脳脊髄液という脊髄の周囲を満たしている体液が硬膜外腔に漏れることで頭痛が生じることがあります。通常、特別な治療を行わなくても1週間程度で症状が治まります。



	メリット	デメリット
母体	・痛み（陣痛）の緩和 ・産後疲労の軽減	・硬膜外麻酔時の合併症（頭痛など） ・血圧低下、発熱などが見られる場合も
分娩の経過	・子宮頸（けい）部、膣（ちつ）、外陰部などが、麻酔によって緩みお産がスムーズに進む	・麻酔により娩出力が低下し、分娩時間が長くなる ・娩出力低下による吸引分娩、鉗子分娩の増加

助産師 金只さん　知識と経験に基づいた評価適切な体位・呼吸の指導も

お産で妊婦さんともっとも長い時間を過ごすのが助産師です。

無痛分娩の管理には、知識と経験に基づいた評価が不可欠で、JALA（無痛分娩関係学会・団体連絡協議会）が定める講習会を受けた助産師21人が在籍しています。

麻酔により痛みが鈍くなり、妊婦さんが分娩の進行を体感しにくくなるため、胎児の心拍や陣痛の進行をモニターで細かく確認することが必須です。また、ふらつきが出るため、トイレの同行など安全対策を徹底しています。

無痛分娩は、麻酔が効いている範囲を助産師が把握しておくことが大切です。例えば、片側の腰部に麻酔が効いている場合、効いている腰側を上にして横になると反対側も麻酔が効く、出産が近い時期は、体を立てて下方への効きが得られる体位にするなど、適切な体位指導を行います。

麻酔が効き過ぎると、陣痛を感じにくくなるため、呼吸・いきみの指導を細やかに行い、正常分娩に導きます。

無痛分娩をするかどうかの意思決定は、妊婦さん自身が情報をしっかり把握して自身で決定するようにしましょう。

金只　好永（かねただ よしえ）さん
周産期センター・アドバンス助産師

1993年助産師資格取得。同年倉敷成人病センター入職、周産期センター勤務。2015年アドバンス助産師資格取得

逆子は無痛分娩ができない？「胎児外回転術」の選択肢も

妊娠後期を迎えても逆子が続く場合、おなかの外から赤ちゃんを回転させて、逆子を元の位置に戻す「胎児外回転術」という方法があります。週数が進むにつれて、自然に戻る割合は減少するため、36週での介入が適期です。胎児の位置を3次元で把握し、実施する高度な手技で、胎児外回転術により、経腟分娩（無痛分娩）へ移行できた事例が多数あります。

産科　山崎 史行先生
（やまさき ふみゆき）
40年間で約2000人の妊婦さんに胎児外回転術を行った実績がある

外来受診をご希望の方

下記のお電話番号へご連絡ください

紹介状をお持ちの方のご予約
患者総合支援課 地域連携
086-422-2116
受付時間　平日8:30～18:30

診察（初診・再診・変更）のご予約
予約センター
086-422-2112
受付時間　平日9:00～16:00

※土・日・祝日および年末年始は受付を行っておりません。
※時間帯により、回線が大変混み合うことがございます。比較的午後の方が繋がりやすくなっています。

倉敷成人病センター周産期センターはこちらから

お部屋はWi-Fiありの「全室個室」
部屋代無料

FMF認定医による妊娠初期の胎児ドックのご案内
検査時期　妊娠12～13週
外来日時　毎週月・水曜日 14:00～16:00
検査時間　30分～1時間程度
検査料金
● 初期精密超音波検査 20,000円（税込）
● コンバインド検査 33,000円（税込）
当院での出生前検査の解説動画はこちら

産後ケアのご案内
補助金の当院契約市町村（倉敷市・岡山市・早島町・その他）
申込・お問合せ　周産期センター　086-421-1023

一般財団法人 倉敷成人病センター Kurashiki Medical Center
住所 岡山県倉敷市白楽町250
TEL 086-422-2111（代表）